

会 議 録

会議の名称	平成30年度第1回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成30年4月10日（火）午後7時～9時
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	搦木道代議長、荒川照子委員、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員 事務局
欠席者	本間雄一副議長
公開・非公開	公開（傍聴人 1人）
会議次第	1 協議事項 ・第31期のテーマについて 2 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

- 議長あいさつ
- 生涯学習課より人事異動について

2. 協議事項

- ・第31期のテーマについて

【議長】前回の会議にて、ここ数年テーマとしている家庭教育や親の教育から離れ、別のものをテーマとすることで了承を得た。社会教育委員会議を遡っていくと、人材バンクで高齢者の活動の場について協議している時もある。何に焦点を当てていくのが良いか。

【事務局】前回会議で、30年度より始まる富士見市教育振興基本計画の中の社会教育・生涯学習分野に焦点を当ててもいいのではないかという話がでたため、本日資料で用意している。分野としてはとても広い。そのため、それぞれの分野において審議会が置かれているのが現状としてある。公民館、図書館、文化財、スポーツごとに審議会が置かれているとはいえ、社会教育委員会議で、それらの内容について協議してはいけないという取り決めはないため、委員の方が地域で返せる内容であることが望ましいと感じている。

【議長】前回会議で中高生について話がでた。役割を与えると、とてもよく動いてくれるが、なかなか地域の活動に出てきてもらえないというのが現状としてある。中高生はどこにいるのだろうか？という素朴な疑問がある。

【委員】ららぽーとができたので、放課後は中高生のたまり場になっているのではないか。また、就労先での話だが、高校生の募集を行ってもなかなか集まらないため、どういうところで働きたいと思っているのか、考えることがある。

【委員】中高生と一言と言っても、中学生と高校生だと行動範囲が異なる。また、親の関わりも大きく変わり、なかなか行動が見えてこない部分もある。

【議長】教育委員会より諮問がないため、範囲は広くテーマは自由であるが、富士見市の生涯学習をより充実させていくために、提案や助言をしていくことを考えると、中高生については近年テーマとして挙げられていないため、協議内容に適すと考えるが、いかがか。

【委員】川越市のジュニアリーダーについて。以前川越にいた経験では、各小学校の子ども会育成会の行事に、中学生がジュニアリーダーとして手伝ってくれていた。育成会が母体となるため、ジュニアリーダーも育成会出身者で、小学6年生になると、ジュニアリーダーの呼びかけを行う。楽しい体験があると、そのまま残るのだと思う。

【委員】青少年育成市民会議で、今年から20～30歳くらいの方を対象に始めたリーダー研修がある。若い方たちは忙しいから、呼びかけをしても人が来ないのでという話もでたが、夏休みの宿題教室で教えてくれている淑徳大学の学生など、数名手を挙げてくれた。その方たちに実際講義をしてくれる講師の方を探し、これから研修が始まる。テーマの対象としては、とても良いと感じる。

【委員】以前は、ボーイスカウトなどで綱の結び方や登山のいろはについて教わった

りした。最近は聞くことがなくなったため、中高生の層は良いと思う。

【委員】水谷東公民館には、小学生と遊んでくれる「おむすび少年団」がある。おむすび少年団は、夏休みに小学生を対象とした宿泊事業を行い、それに参加した子が残って、指導員となり活動している。中学生から大人までいて、今でも続いている活動がある。

【委員】水谷公民館の「なんちゃん隊」も大人が介在しているが、子どもや親子を対象に事業を行ってきており、現在も貝塚公園の星空シアターや公民館の文化祭で卒業生が来てくれるので、それがまた励みになったりする。

【委員】みずほ台の太鼓クラブも、小学生の指導を卒業生たちが教えていたりする。

【議長】前回の会議録を振り返ると同時に、富士見市生涯学習推進基本計画の中でも「あらゆる世代の市民がいつでも、どこでも、いつまでも自発的・主体的に学習・活動できる生涯学習の構築に向けて」とある。テーマについて、どうするか。

【委員】小学生は親や地域の方が目をかけているので、ある程度は行動が把握できる部分があると思う。中学生になると、本当に近所の子でないといけない部分がある。中学校を卒業したあとの高校生は、地域で会うことがなければ、どこにいるのかわからない部分はある。

【委員】図書館もリニューアルして学習席が増えた。高校生の姿が今後見られてくるのではないか。

【委員】図書館の来館者の資料を見せてもらったが、40歳以上がほとんどで、若い世代の方が圧倒的に少ないのに驚いた。スマホの影響などもあると感じる。

【委員】先日の中央図書館リニューアルイベントの時の講演会はとてもすばらしかった。若い方を探したがほとんどいない状態でもったいないと思った。

【委員】昔は移動図書館があり、近所の子ども達に来ていた。

【委員】ふじみ野交流センターは、1階のフロアにフリースペースがあり、そこには中高生がきて勉強している。交流センターの夏祭りでも、勝瀬中学校にボランティアの依頼を出すと、手を挙げてきてくれる。力もあるので、非常に頼りになる。ただ、そこだけで終わってしまう、つながりが一過性になってしまうのは、もったいないと感じている。

【委員】水谷公民館では、文化祭の時に本郷中学校の美術部が看板を作ってくれたり、ブースを出してくれたりしている。きっかけがあると、活動に参加してくれる。

【委員】水谷公民館では他に、みずほ台小と水谷小の小学生を対象とした宿泊事業があり、その事業を支えているのは、過去に参加して成長した中高生と大人たち。現在もその事業は続いている。

【委員】子どもフェスティバルでも、多くの中学生が参加している。以前は、学校に依頼し生徒会が中心となって参加してくれていたが、最近は自主的に参加してくれる中学生が増えているように感じる。これは、富士見高校の生徒にも言える。

【委員】頼りにされることは、とても嬉しいことだと思う。イベントに呼ばれ、参加することの存在意義みたいなものを感じると、「また行こう」という気持ちになるのかもしれない。

【委員】参加している子は目につくが、それ以外の中高生も多くおり、実態がわから

ないという部分がある。わからないからこそ、テーマにするのもよいかもしれない。

【委員】生徒や学生のボランティア体験の話聞く。単位になったり、面接で加点になるなどの側面もあるようだが、増えているように思う。

【委員】南畑では入梅の頃にカン拾いを行う。大体日曜日に行くが、アンパンとお茶を楽しみに、中学生や小学生がきてくれる。田舎の地域であるが、かなりの人数が集まり、人のつながりを感じる。

【委員】中高生ということで話をしているが、中学生と高校生は社会的条件や地域に対する考え方が、全く異なる。イベントによるとは思うが、中学生と高校生に求めるものも全く異なると思う。また、中学生は学校に働きかけを行えば、いろんな地域活動については、小学校からのつながりもあるので可能。高校生になってからが途切れてしまう。富士見高校が南畑のまつりや、市のふるさとまつりに参加しているが、富士見高校の生徒で富士見市出身、地元の子がどの程度いるのは不明であり、市外の子も多いのではないかと。そうすると、地域への見方、参加についてもかわってくる。そのため、中高生と一緒に括るのではなく、中学生と高校生のどちらかに焦点を合わせた方がよいのではないかと。私自身は、高校生以上の子たちに合わせて、今後どのように地域活動に参加するか、地域と関わっていくかについて話し合うのがよいと感じている。例えば、成人式の実行委員などにも影響してくると思う。中学校を卒業し、20歳前後でも地域に参加できる取り組みなどを支援する、社会教育施設や地域活動の在り方などを考える会議はどうか。

【事務局】川越市のジュニアリーダーや、川崎市の事例をみると、子ども会育成会が母体となっていたりする。富士見市にも、各公民館で行っている事業や青少年相談員など、育成会がベースとならない活動も盛んではあるが、中学生や高校生の関わりは、育成会の存在が大きい部分はある。富士見市では、数年前に育成会連合会がなくなり、現在は地域で育成会がある地域とない地域がある。

【委員】育成会がない地域でも、町会や地区社協などで子ども関係の事業は行っているが、やはり学校とのやりとりや子どもの参加については、育成会があるとないとは全く異なるし、事業を行う担当者の事務量も異なる。育成会があると地域の子どもの身近に感じる。

【委員】大学生を日頃みているが、非常にボランティア活動が盛ん。学校現場にでる学生や、子ども大学に参加する学生、三芳町の芋ほりなど、学校現場と異なる場所に行く学生も増えている。本当に積極的に行っていると感じる。そのベースとして、高校で授業の一環のところもあるが、ボランティア活動を行っている子が多い。仕組みがあると好んで参加をする傾向があるように感じるため、高校生世代に焦点を当てて地域参加を考えるのも面白いと思った。

【委員】夏休みの宿題教室でも、淑徳大学の学生は本当に積極的にきてくれている。

【委員】ボランティアなどは、やる気があることの象徴ではないか。

【議長】一方で、進学をしていない高校生世代の子もいると思う。

【委員】中学生までは、富士見市の中で管理されているので安心する部分があるが、卒業した後、うまく社会に入れなくなった高校生世代もいたりするのは。会議の中で、焦点を当てた時、高校生世代を広く捉え、社会参加という意味

で考えると、救える高校生世代の子もでてくるのではないかと思う。

【委員】かなり前になるが、ボランティアという言葉がここまで普及していない時に、ボランティアをさせてほしいと言ってきた高校生がいた。当時ボランティアを募集していたわけではないが、訪ねてきてくれたのを思い出した。人間のつながりにもなるし、大人も非常に参考になるところがあり、一緒にやることで、びっくりすることができたりもする。

【議長】話の流れから、高校生世代という感じであるが、どうか。

【委員】活動をしている高校生世代、一方で活動をしていない高校生世代、20歳あたりまでを含め、「ハイティーン世代」として、その世代が地域社会に貢献するためにはどうするかというのを考えてみても良いのではないか。

【議長】ハイティーン世代は、自分で何でもできている世代のように感じる。ある意味とても元気な世代であり、また忙しいということもあり、大人も積極的な参加の呼びかけを遠慮している部分もあるかもしれないが、非常に地域にでてきてくれると活気があふれる。いろんなタイプのハイティーン世代がいると思われるが、テーマとすることでよいか。

【委員】選挙権が18歳になったが、報道では「18歳の投票率」という尺度でしか放送されない。実際、それは18歳に限ったことではなく、大事なのは社会的に認知され、政治的にも責任が出て認められるという大事な年代であるということ。その年代の子たちが地域で何をしているのか、どう関わっているのか、何を考えているのか、ということを知ることが必要だと感じる。地域からモーションをかけることも必要があるのでは。学校が終わったら、教育が終わるというわけではないので、考えてみても良いのではと思う。

【委員】学校以外のところで育っていくという視点が大事で、その延長で活動に参加してもらおう。地域で生きていく人として育っていけるかなど、自分の先を見つめることが大事だと感じる。

【委員】ハイティーンは自分のことでいっぱい、勉強したり遊んだり、悩んだり、いろんなことを考えている時。

【委員】活動ありきで育つのではなく、育つことがある中での活動という視点もあるとよい。

ハイティーン世代をテーマとすることで委員了承。

実態把握を行うため、分かる範囲でのハイティーン世代の活動について記述したものを事務局に提出。それをもって、次回会議を進める。

次回会議日程

平成30年度第1回会議

日程：平成30年5月24日（木）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

3. 閉 会